



© Sumiko Scott



© Thomas Schoch

マブユ / アボリジニ

およそ2000年前に描かれたマブユという漁師の精霊の岩絵。Mimi spiritsと呼ばれるこの類の精霊は、狩りの仕方や岩絵の描き方など多くの知恵をアボリジニに教えたと伝わる。

砂漠の民の芸術

砂漠の民による創造物。美しく神秘的なそれらは私たちが魅了するだけでなく、彼らの生き方そのものを突きつけてくる。

池尾優=文
text = YU IKEO

砂漠の民は先史時代から砂漠に表現を残してきた。それは彼らによる彼らのための表現であり、現代のアート作品とは少し意味合いが異なる。

例えば、アルジェリアのタッシリ・ナジェールに残る無数の壁画。大型野生動物の宝庫だった紀元前6000~4000年前から家畜が定着した時代、それから乾燥化が進みラクダが登場する紀元前200年以降まで、さまざまな時代に描かれた壁画には、気候とともに変化してきた人の生活が映し出されている。アフリカやサハラの文化に詳しい石山俊氏は言う。「タッシリ・ナジェ

ール(タマシュク語で「水のある台地」)の名の通り、サハラ砂漠にはかつて湿潤期がありました。その様子を記録した壁画は、芸術的な評価も高いが貴重な学術資料でもあります」。同様の壁画は世界中の乾燥地帯に見られるが、それは前提として、広大で過酷な地では物は劣化が激しく流通も難しく、伝達や記録に「紙」という選択肢がなかったからだ。加えて、元来、文字をもたないオーストラリアの原住民アボリジニにおいては、ビジュアルが情報伝達のツールとなった。彼らはシェルターとして暮らす巨大な岩陰に無

星を並べるコヨーテ / ホピ族

夜空に星を並べていた蜘蛛女を手伝っていたコヨーテだが、面倒になりついに星の袋ごと空にばらまいてしまった、という神話の図。星が整然と並んでいないのはそのためなんだとか。

Ancient

古代



© 大塚雅貴 / アフロ

タッシリ・ナジェールの洞窟壁画群

1万5000以上もの壁画が点在するエリア。古いものでは紀元前1万年前のものから、湿潤だったサハラが乾燥し砂漠と化すまで、変化する人間の暮らしが活写されている。



Flag #10 (2008) / Sara Rahbar

アメリカに暮らすイラン人作家が、15年間制作をつづけるシリーズ(全59作品)。イランの遊牧民の装飾品で飾られたアメリカ国旗が、作家の絡み合うアイデンティティを深く表している。

© sara rahbar & carbon 12 gallery

Present

現代



© Lalla Essaydi and Edwynn Houk Gallery, New York

数の絵を残した。Mimi spiritsと呼ばれるアボリジニ以前に大陸に住んでいた細長い体をもつ精霊やDream timeという独特の神話など、そのモチーフはおとぎ話のようだが、水のありかや手に入る時期のこと、動物の習性や変化する気候の理由など、暮らしに必要なことが織り交ぜられている。彼らは岩絵から部族のルーツや自然のルールを学び、また子へと伝えてきたのだ。

砂漠に生きる遊牧民の装身具は魅惑的だが、これにも特別な役割がある。遊牧民になったつもりで、砂漠の真ん中で見知らぬ者と遭遇したら

どうか。何よりもまず敵・味方を見分けるのに、手がかりとなるのは見た目だ。サラ・ラフバーによる作品〈Flags〉がこれほどまでに見る者の心に刺さるのは、彼らの装身具が今も変わらずアイデンティティそのものだからだ。また、ララ・エサイディが全身にアラビア語のカリグラフィを施すように、加えてメンバーが主にトゥアレグ族から成るバンド、タミクレストがタマシュク語で歌いつづけることを辞めないように、言葉もまた重要だ。トゥアレグ族の文化を発信するデモ

ード・豊崎・アリサ氏は言う。「新聞もラジオもあ

でこーと・とよさき・ありさ●バリー、東京、アカデス(ニジェール)を拠点とするジャーナリスト。トゥアレグ族を支援する「サハラ・エリキ協会」を創立。

かわち・たか●アートや写真にまつわる展覧会のキュレーション、写真集の編集、執筆活動など活動は幅広い。著書に「アートの入り口アメリカ編」ほか。

いしやま・しゅん●国立民族学博物館、人類文明誌研究部、プロジェクト研究員。アフリカやサハラ砂漠の文化に詳しい。

げんおうぞの・せづいん●中東地域のアート情報を発表する「seeME」主宰。中東地域の現代アートを中心に展覧会を企画している。



KIDAL (2017) / Tamikrest

トゥアレグ族に伝わる音楽特有の柔らかいサウンドとラクダの歩調によく合うベースはどこか憂いが漂い、「砂漠のブルース」を世に知らしめた。2019年10月には来日ツアーを予定。

Bullet Revisted #26 (2015) / Lalla Essaydi

女性の身体にアラビア語のカリグラフィを施したシリーズ作。金色のドレスは実は銃弾。中東世界の根深い男尊女卑に直目した作家は、女性の美と力強さを用いて、その支配関係に挑戦した。

らゆるメディアが機能しない砂漠では、言葉や歌が重要な情報伝達のツールでした。タミクレストが結成されたマリ北部は、今も政府による民族への抑圧が厳しいエリア。言葉は彼らの絆を深め、心の拠り所となっているのです」

一見ミステリアスでユーモラスな表現は、過酷な環境を生き抜くための砂漠の民の智慧の結晶である。少数民族問題、女性差別、イスラム世界対アメリカなど、現代の砂漠が直面する問題は多い。表現者たちは、武器を持つ代わりに、自らの尊厳をキャンパスに描きつづける。